



# 2020年12月期 第3四半期決算説明資料

## Precision for a changing world

精密加工技術で社会環境の変化に対応していきます

2020年11月13日  
株式会社ツバキ・ナカシマ  
(東証一部 6464)



# FY2020 第3四半期業績ハイライト①

売上・利益とも、2020年第2四半期との比較（＝前四半期比）では大きく増加。新型コロナウイルス感染症の影響で、前年同期比では減少

## 売上

- 第3四半期単独の売上収益は127億円。前四半期比30%増
- 各セグメントも前四半期比では増加
- 累計では、売上収益は367億円、前年同期比25.9%減※<sup>1</sup>

## 利益

- 第3四半期単独の営業利益は7.9億円。前四半期比4.6億円増
- 同当期利益は3.8億円となり前四半期比3.8億円増
- 累計では、営業利益は21.2億円、当期利益は10.7億円となり前年同期比では、それぞれ72.1%減※<sup>1</sup>、78.4%減※<sup>1</sup>

## 配当

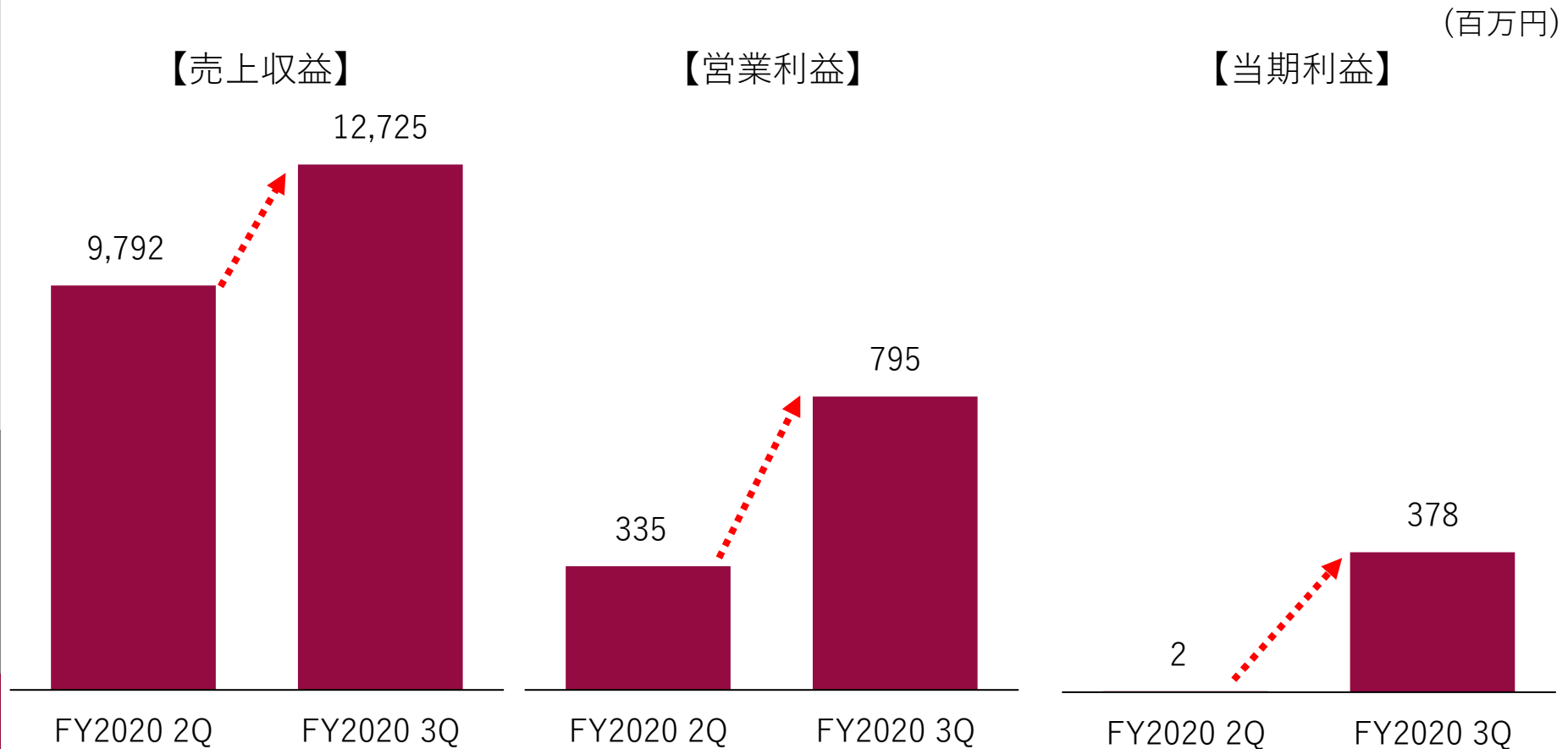
- 期末配当は5円／株を予定。
- 年間配当額は、中間配当10円／株とあわせ、15円／株の予定。

※<sup>1</sup> “増減比”は為替影響を除く



# FY2020 第3四半期業績ハイライト②

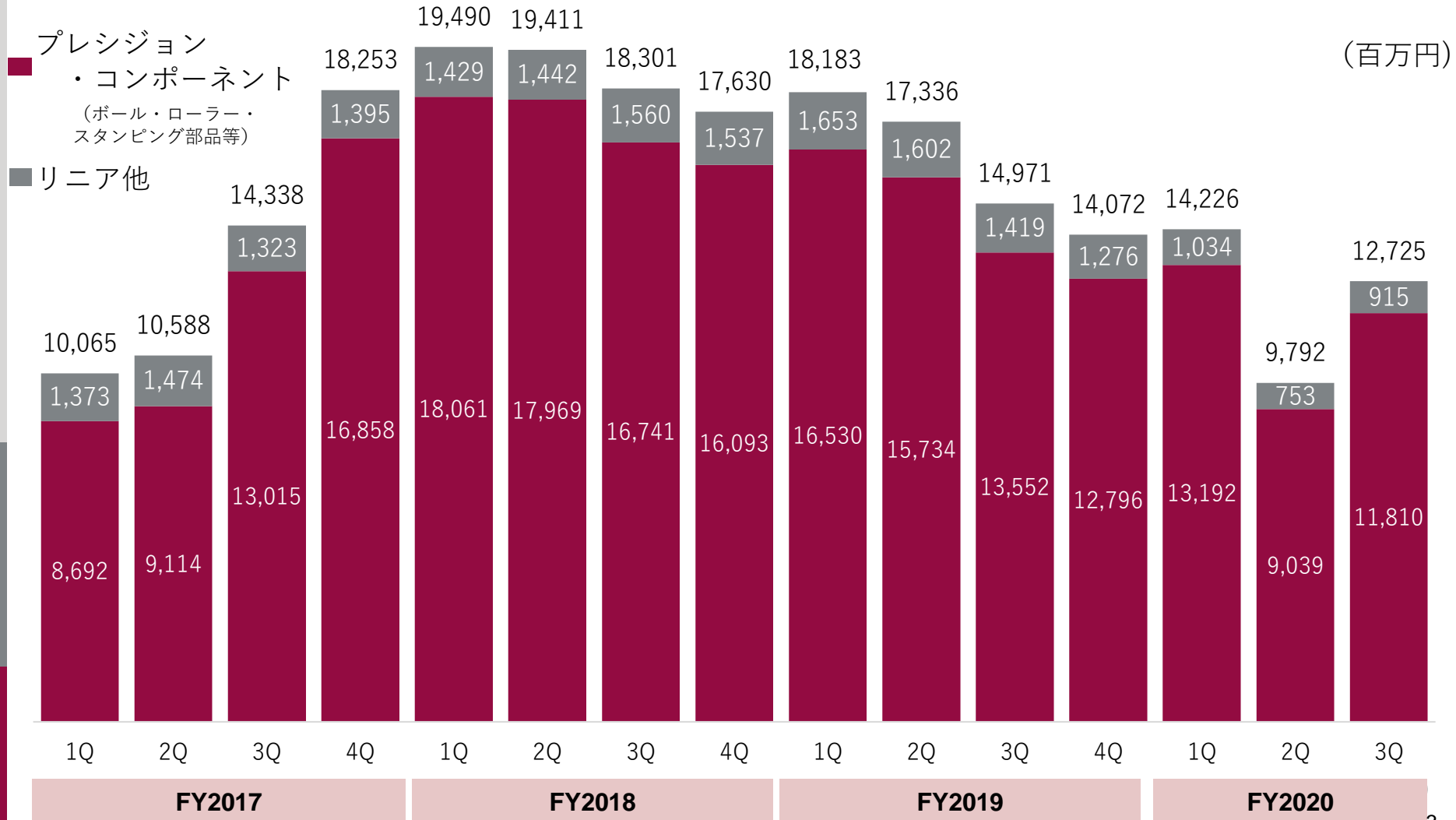
売上・利益とも、前四半期比では大きく増加。





# 四半期 連結売上収益推移

プレジジョン・コンポーネント、リニア他の売上収益が、それぞれ前四半期比30.7%、21.5%増に





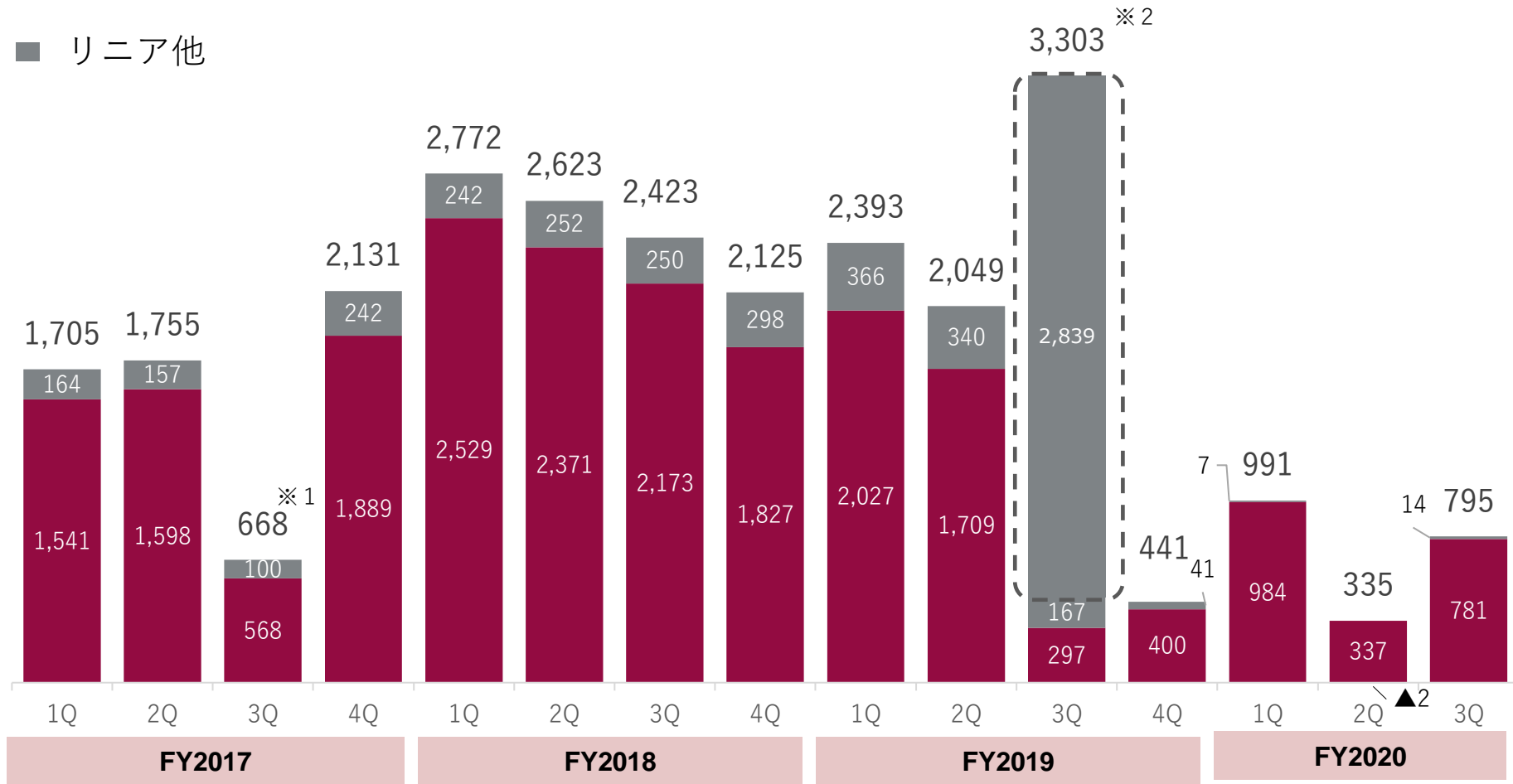
# 四半期 連結営業利益推移

売上収益の増加を受け、四半期営業利益も前四半期から増加

(百万円)

■ プレシジョン・コンポーネント

■ リニア他



※1 PBC事業買収関連費用(1,285百万円)反映後

※2 資産売却益(2,839百万円)を含む



# FY2020 第3四半期連結業績 前年同期比

新型コロナウイルス感染症が世界的に拡大しているなか、厳しい状況が続き、為替影響を除いた売上収益は前年同期比25.9%減、営業利益は同72.1%減

(百万円)

	FY2019 3Q累計	FY2020 3Q累計			
	実績	実績	為替影響	増減額※1	増減比※1
売上	50,490	36,743	▲671	▲13,076	▲25.9%
営業利益	7,745	2,121	▲42	▲5,582	▲72.1%
対売上(%)	15.3%	5.8%	—	—	—
EBITDA	10,272	4,648	▲88	▲5,536	▲53.9%
税前利益	7,071	1,494	▲16	▲5,561	▲78.6%
当期利益	5,033	1,071	▲17	▲3,945	▲78.4%

※1 “増減額”及び“増減比”は為替影響を除く



# FY2020 第3四半期セグメント・地域別売上 前年同期比

各セグメント・地域で前年同期比マイナスながら、マイナス幅は縮小の動き

(百万円)

	FY2019 3Q累計	FY2020 3Q累計			
	実績	実績	為替影響	増減額※1	増減比※1
グループ連結	50,490	36,743	▲671	▲13,076	▲25.9%
プレシジョン・コンポー ネントセグメント※2	45,816	34,041	▲684	▲11,091	▲24.2%
日本	8,528	6,822	—	▲1,706	▲20.0%
北米	10,492	7,854	▲117	▲2,521	▲24.0%
欧州	17,490	11,964	▲253	▲5,273	▲30.1%
アジア(含む中国)	9,313	7,403	▲314	▲1,596	▲17.1%
リニア他セグメント	4,674	2,702	13	▲1,985	▲42.5%

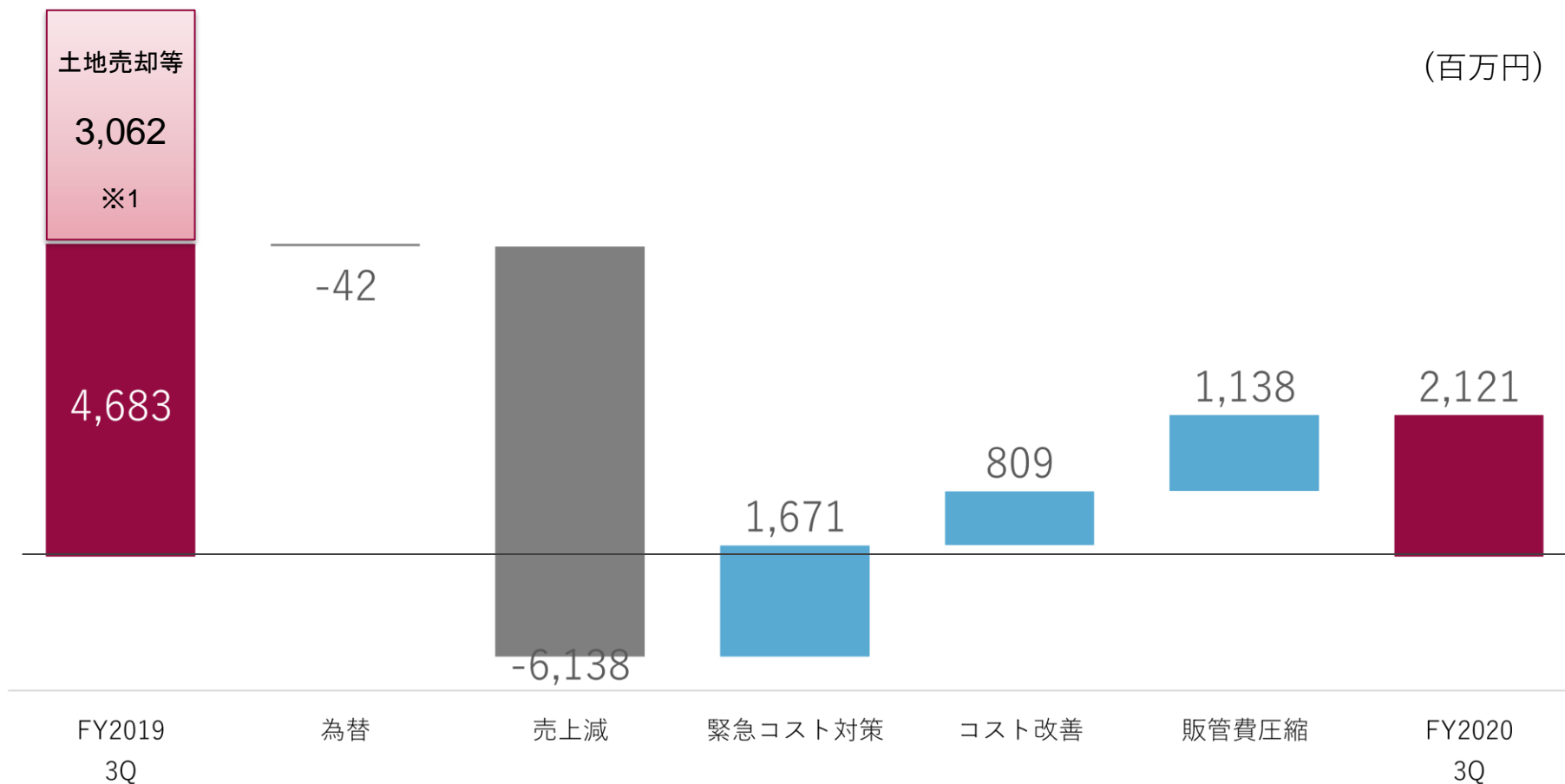
※1 “増減額”及び“増減比”は為替影響を除く

※2 セグメント間収益を除く

# FY2020 第3四半期営業利益 増減要因 前年同期比



コスト改善と販管費圧縮が利益の下支えに貢献したほか、緊急コスト対策が利益に寄与した一方、新型コロナウイルス感染症の影響による売上減が大きく影響



※1 2019年度実施した賃貸用土地売却に伴う売却益と家賃収入。

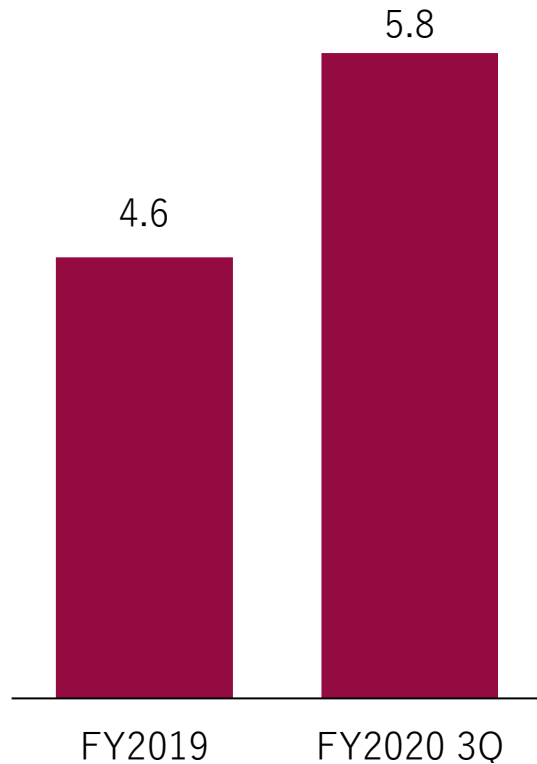




# BS/CFにおける業績

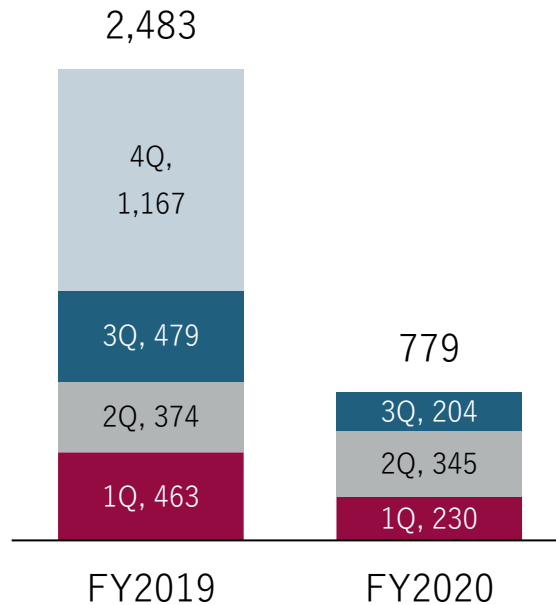
### 棚卸資産回転月数(月)

売上減少により回転月数は高止まりとなる



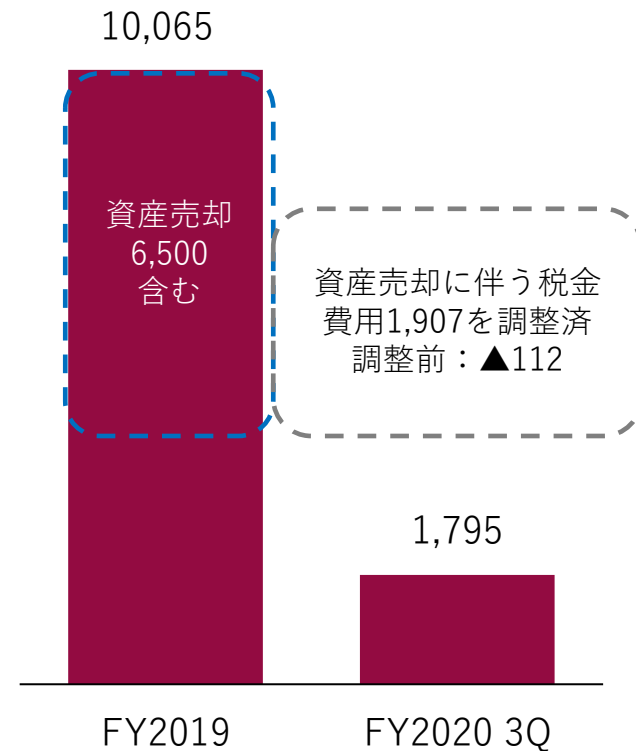
### 設備投資額(百万円)

成長寄与及び操業リスク予防のための投資を除き、設備投資を選択的集中



### 調整後フリーキャッシュフロー(百万円)

手元資金の積み上げを継続推進



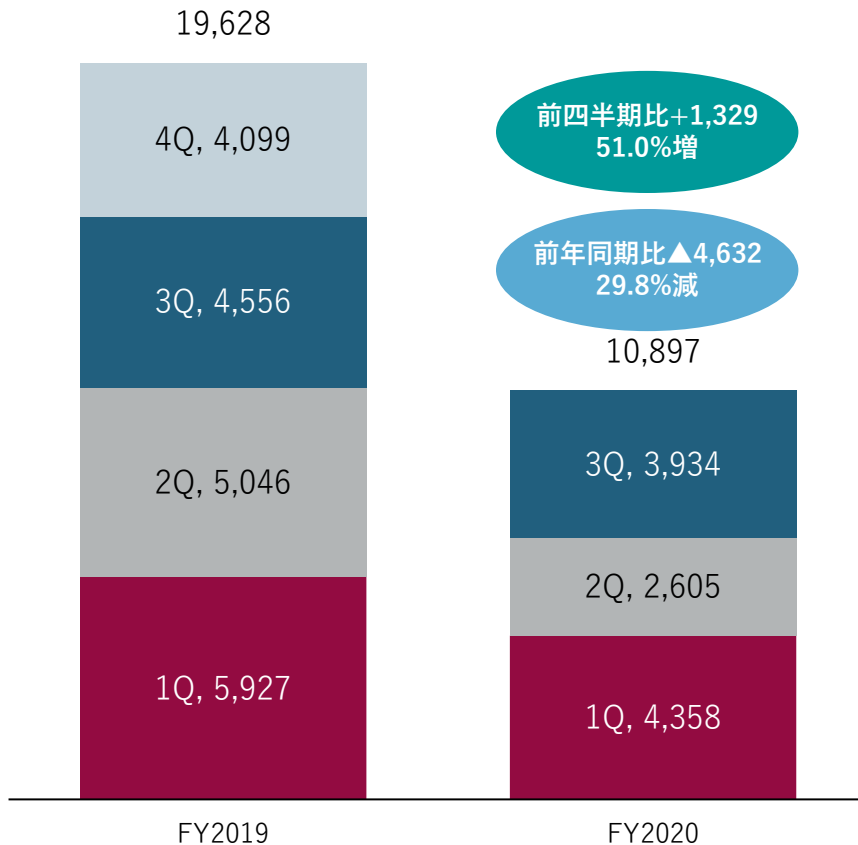


# FY2020 第3四半期販売戦略の進捗

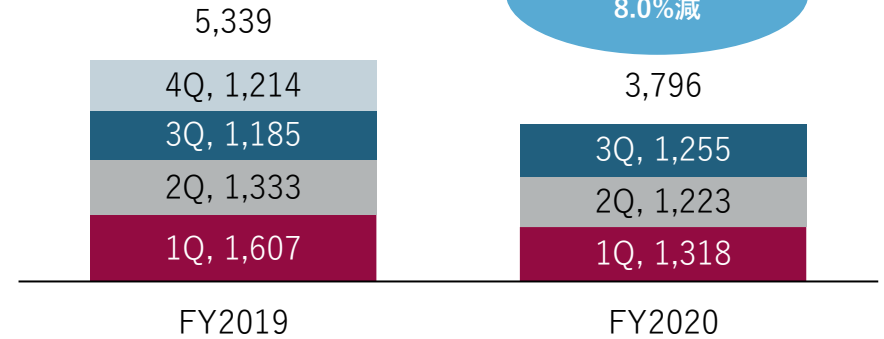
いずれのセグメントも前四半期比は増加。セラミックボールは2019年第3四半期比でも増加 (+70百万円、5.9%増)

(百万円)

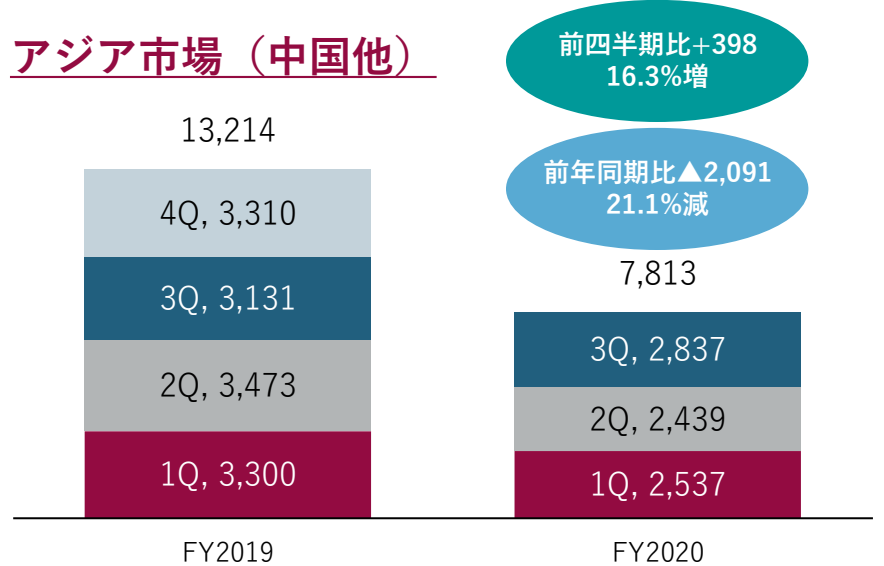
## 海外のお客様



## セラミックボール



## アジア市場 (中国他)





# 免責事項

本プレゼンテーション資料は、本プレゼンテーション資料の日付現在において有効な経済、規制、市場及びその他の条件に基づいており、当社は本プレゼンテーション資料の情報が正確又は完全であることを保証するものではありません。今後の動向が本プレゼンテーション資料に含まれる情報に影響を与える可能性があります。当社は本プレゼンテーション資料に含まれる情報を更新、改訂又は確認する義務を負いません。本プレゼンテーション資料に含まれる情報は、事前に通知することなく変更されることがあり、当該情報の変更が重大なものとなる可能性もあります。本プレゼンテーション資料及びその記載内容について、当社の書面による事前の同意なしに、公開又は利用することはできません。

本プレゼンテーション資料には、1995年米国私的証券訴訟改革法上の将来予想に関する記述を構成する記載（推定値、予想値、目標値及び計画値を含みます）が含まれております。当該将来予想に関する記述は、将来の業績について当社の経営陣が保証していることを示すものではありません。当社は、将来予想に関する記述を特定するために、「目指す」、「予測する」、「確信する」、「継続する」、「試みる」、「見積もる」、「予期する」、「施策」、「意図する」、「可能性がある」、「計画」、「潜在的な」、「蓋然性」、「企画」、「リスク」、「追求する」、「はずである」、「努力する」、「目標とする」、「予定である」等の用語及びこれらに類似する表現を使用する場合があります。また、将来予想に関する記述は、戦略、計画又は意図に関する議論により特定可能な場合もあります。本プレゼンテーション資料に記載されている将来予想に関する記述は、当社が現在入手可能な情報を勘案した上での、当社の現時点における仮定及び判断に基づくものであり、既知及び未知のリスク、不確実性その他の要因を含んでいません。当該リスク、不確実性その他の要因により、当社の実際の業績又は財務状態が、将来予想に関する記述により表示又は示唆されている将来の業績又は財務状態から大きく乖離する可能性があります。

当社以外の会社又は当事者に関連する情報又はそれらにより作成された情報は、一般的に入手可能な情報及び本プレゼンテーション資料で引用されているその他の情報に基づいており、当社は、当該情報の正確性及び適切性を独自に検証しておらず、また、当該情報に関して何らの保証もするものではありません。